

1Day NEWS

2018春 vol.01



認定NPO法人 国連WFP協会

「WFPウォーク・ザ・ワールド」を盛り上げました

世界では4人に1人の子どもが慢性的栄養不良に陥っています。国連WFPは子どもたちが健全に成長し、学び、貧困を克服できるよう、「学校給食プログラム」を行っています。「WFPウォーク・ザ・ワールド」は、途上国の子どもたちの飢餓をなくすためのチャリティーウォークで、参加費の一部が国連WFPの「学校給食プログラム」に役立てられます(約30円の寄付で子ども一人に一日分の給食を届けることができます)。



イベントでは運営スタッフとして受付や来場者の整理、ゴール地点での出迎え、レッドカップの販売、子ども向けブースの企画・運営、アプリ拡散などに取り組みました。

また、明学生のためのスペシャルプログラムとして取材・広報体験をさせていただきました！一部抜粋してお届けします。



スペシャルプログラム1 《企業の方にインタビュー》

本イベントの協賛企業である日清食品HD(株)の宮島さんにインタビューをさせていただきました。社会人の方にインタビューをするという初めての経験に緊張しましたが、「企業の社会貢献とは？」「働くとは？」を考えるととてもよい機会になりました。

[Q]このイベントに参加することになった大きなきっかけは何ですか？

[A]日清食品HDが行っているCSR活動の「フードロスなくす」という目的と、国連WFP協会の事業目的に重なる部分があり、4年前から毎年このイベントに参加しています。私は昨年からのイベントに携わっています。

[Q]このイベントに参加するうえで一番大切にしていることは何ですか？

[A]イベントで発生したお金を国連WFPの「学校給食プログラム」に反映させること。また、弊社がこんな活動も行ってると、参加者のみなさんに知ってもらうきっかけにもしたいです。

[Q]このイベントに参加することで、どのようなことが日清食品に還元されますか？

[A]「WFPウォーク・ザ・ワールド」という面白いイベントに参加しているということで、参加者のみなさんが弊社に興味を持ってもらうきっかけとなることを期待しています。また、多くの社員もイベントに参加しています。一緒に歩くことで、普段話す機会が少ない人ともコミュニケーションがとれるため、社員同士の絆が深まるきっかけとなっています。

私たち大学生へのアドバイスもお聞きしました！

[Q]大学生のうちに取り組んでおいたほうがよいことはありますか？

[A]語学は大事だから、まず英語。それと英語以外にもう一つ言語を習得しておくと思えます。それと新聞を読むこと。社会事情については知っておいたほうがよいと思えます。



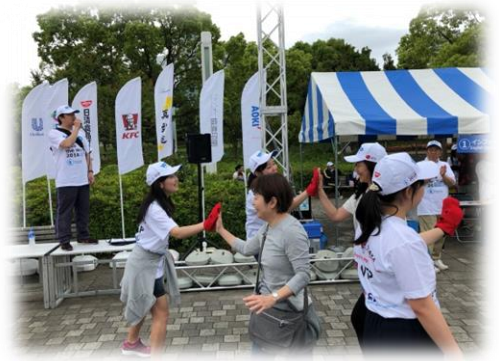
-- * ♪ -- * ♪ -- * ♪ -- インタビューを終えて -- * ♪ -- * ♪ -- * ♪ --

企業の方に直接お話を伺う機会はめったにないので参加できてよかったです。
宮島さんは自社の商品が本当にお好きで、誇りを持ってお仕事をいらっしゃると感じました。私も自分の仕事にプライドを持って取り組める大人になりたいと思いました。

中平 有咲 さん(法学部法律学科2年)

日清食品HD全体への質問だけでなく、就職活動など個人的な質問をさせていただき、宮島さんのリベラルな考え方に接し、とても良い経験になりました。
食品会社に特に興味はなかったのですが、これを機に、食品会社をはじめ、さまざまな企業を意欲を持って調べようと思えます。

湯浅 真衣 さん(社会学部社会福祉学科1年)



スペシャルプログラム2 《イベント参加者の方にインタビュー》

学生たちが質問項目を考え、実際にコースを歩いて参加者のみなさんにインタビューしました。

[Q]このイベントに参加するのは何回目ですか？

[A]初めて(会社からの案内で興味をもった)、2回目(新聞の広告欄で/昨年に続いて)、3回目、5・6回目など

[Q]どなたと参加されましたか？

[A]会社のみなどと/ひとりで/ウォーキング協会のメンバーと

[Q] 国連WFPについてご存知ですか？

[A]詳しくは知らない/飢餓に苦しむ子どものための企画かな? /食糧援助を行っているところ?

[Q]世界には多くの飢餓に苦しむ子どもたちがいます。このイベントで得られた参加費の一部は国連WFP「学校給食プログラム」に役立てられます。この課題について、またこうしたイベントについてどう思いますか？

[A]・世界的には飢餓の問題が深刻化しているが、日本では「フードロス」が叫ばれている。個人的には残さず食べることを徹底していきたい。

・自分一人では寄付を現地に届けることはできないので、このようなイベントに参加したり、団体が行っている寄付に参加したい。

・コースを終えてとても楽しかった。みんなと一緒に歩くので、一人のときより寄付もしやすい。

[Q] 学校給食にまつわるご自身の思い出はありますか？

[A] 思い出のメニュー: 鯨肉のカレーやベーコン、カズノコ、揚げパン、ソフト麺、ピロシキなど

・好き嫌いが多かったのであまり好きではなかった。でも家での食事よりおいしかった。

・給食センターで働いたことがあるが、残飯が多い印象だった。

-- * ♪ -- * ♪ -- * ♪ -- インタビューを終えて -- * ♪ -- * ♪ -- * ♪ --

このイベントの趣旨を伝えることが、なによりもこのイベントを開催する意味だと強く感じました。せっかく興味を持ったのだからこそ学びの場になることが私たちにも必要です。1Dayでの収穫は「出会い」でした。立場は違えど「ボランティアをすること」に誇りを持っている皆さんに刺激を受けて、これを機会にさまざまなことに挑戦したいです。

小林 礼奈 さん(文学部フランス文学科2年)

広報活動は初めてで緊張しましたが、参加者の方々が温かく、多くのことを学びました。年配の方々は給食をおいしいと感じた記憶がないとおっしゃっていたのが印象的です。世界基準では現在の日本の給食はとても恵まれているので、残さず食べることが貧困に苦しむ人たちへの貢献の第一歩だと思います。

川上 友理子 さん(文学部フランス文学科2年)

WFPの活動は大学で学んで知っていました。ウォーキングに楽しんで参加することが飢餓に苦しむ子どもたちを助けることにつながっていることがすごいと思います。家族連れで散策や会話を楽しみながらそれぞれのペースでゴールに向かう姿を見て、もっとこうした活動が広まるといいと感じました。

岡本 杏里 さん(国際学部国際学科2年)

インタビューにご協力くださったみなさん、ありがとうございました！



明治学院大学ボランティアセンター

横浜 045-863-2056

白金 03-5421-5131

1dayvol@mguad.meijigakuin.ac.jp

1 Day for Others

募集プログラム・エントリーはこちらから

Volunteer Portal Site
ボランティアポータルサイト

